

被災者からの ありがとうメッセージ

被災された方々からボランティアのみなさんへ、その時に伝えきれなかった感謝の気持ちをお寄せいただきましたので、今回はこのページを活用して「ありがとう」をお届けします。

災害直後から地域で力を合わせて行われた救助活動や復旧支援活動に、日頃からの地域のつながりの強さを感じ、その大切さを改めて感じました。そして、災害ボランティアセンターに朝早くから「何でもやるで!」「どこでも行くよ!」と来てくださり、気持ちよい笑顔で帰って行かれるボランティアのみなさんの姿に感動する毎日でした。今回の災害で、「助けあい」「お互いさま」の心に、人のもつ力の大きさを知りました。

被災された方々はもちろん、地域住民、社協職員など…ここには載せきれない「ありがとう」がたくさんあることもお伝えしておきます。本当に、ありがとうございました。(本部 日下 奈津美)

困った時に助けを待つ人。その困った人々を助けてあげられる人。トライやるウィークの目的でもあるこんな考え方が、この台風9号で被害を受けた当自治会に及ぶとは考えも思いつきませんでした。

正に困った曲里の住民の復旧作業に対し、災害ボランティアセンターを立ち上げ、支援の窓口となって活動していただいた社協の皆さん、ボランティアとしてお手伝いをいただいた山崎高校、伊和高校、穴栗商工会青年部の皆さん、他府県より駆けつけていただいたお一人お一人の皆さんに住民を代表して心から「本当にありがとうございました」とお礼申し上げます。(到着いただいた時は感激の余り声が出ませんでした。)

「恩返しは順送り」の言葉に従い、必ず私たちも実行出来る恩返しに参加する事をお誓いして諸兄に対するお礼のメッセージといたします。合掌

安積盛久(一宮町曲里)

この度の水害は、私達にとっても思わぬ出来事でした。

避難場所から自宅へ戻った時の家の様子をみて、目を覆うほどの光景でした。これから、どの様に片付けをしていけばいいのか、頭の中は真っ白でした。そんな時、ボランティアの方が大勢来て下さり、泥や、水につかった家具等の片付けを手伝って下さり、家の者だけではどうしても出来ない片付けを暑い中、一生懸命手伝って頂き、本当に嬉しかったです。

中安積の方々、社協の方々、伊和高校・山崎高校の生徒さん、一般の方々、沢山の方のお世話になった事は、私達人生にも忘れられない程、嬉しい事でした。ぼちぼちですが、何とか前向きに頑張っています。本当に有難うございました。

伊達みよし(一宮町曲里)

8月9日～10日にかけて台風9号が大きな災害になりました。私は一人暮らしをしています。

8月14日からボランティアの人達に来てもらいました。児童養護施設の子どもや先生、淡路や市川、伊和高校の生徒や先生、郵便局の人、市内の皆さん、たくさんのボランティアの皆様、本当に助けてもらいました。1日中、大変な作業して疲れておられるのに、帰られる時は、みなさん私の顔を見て頑張って下さいと言って帰られました。本当に涙がでるほど嬉しかったです。

ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。心から感謝をします。

私もこれから元気で頑張ります。

匿名

災害の翌朝、母屋と工場の惨状を目にした時、「この歳でもう再起は無理だな、私たちの人生も終わりだな」と思いました。

地域の方やボランティアの方々、たくさんの皆様に復旧作業をして頂き日を追うごとに泥が撤去されました。空洞になってしまった我が家や工場の様子を見るにつけても、何とも言えない悲しさや当たるところのない憤りを感じずにはいられませんでした。しかし、黙々と作業して下さる皆様の姿に触れると「このままでは人生は終われない」という気持ちが心の大部分を占めるようになり、弱気である自分が恥ずかしいと思うようになりました。何とか早い時期に仕事ができるように一步一步踏み出すことが、助けて頂いた皆さんに対する答えなのだと思います。

一生に一度というような水害に私たちは遭遇しました。そして、皆さんボランティアさんの力をお借りして再起の道を歩もうとしています。その勇気と希望を皆さんに頂きました。ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。今はこの気持ち以外何も言えません。本当にありがとうございました。

山本大輔(一宮町三方町)

夜中、緊急避難放送に驚く間も無く、川のようになった家の外に飛び出して無我夢中で家を後にしました。翌日、我が家は泥の海の中にありました。夏の暑さの中、泥をかき出す作業に終日追われ、疲労から皆口数も少なくなって行きました。

そんな頃、ボランティアの皆さんが来て下さいました。本当に心強くなったのもしく思い、うれしかったです。高校生たちはいやな顔一つせず一生懸命に泥だらけの仕事をしてくれました。また、別の日は男性3人女性1人の若者たちがはるばると遠い加西市からやって来てくれました。彼らは狭い床下にもぐりこんで、重い泥をバケツに何杯もかき出してくれました。誰でも躊躇するような作業を彼らは明るく元気にやってのけてくれたのです。体ひとつで駆け付けてくれたそのボランティア精神は尊く、彼らのひたむきな行動とやさしい温かさによって悲しみと疲れに沈み込んでいた私たちは笑顔を取りもどすことができました。

今年の夏、水害でたくさんの物を失い、悲しくつらい経験をしました。しかし、ボランティアの皆さんの真剣な行動と元気な笑顔は私たちにとって素晴らしい大切な思い出になりました。もしも、またいつか会うことができるのなら、心からお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。

前橋信也(一宮町曲里)

この度の災害で、今までテレビで見っていた場面が目の前に広がり、あ然とし、どうしていいかわからない状態でした。家の中に入ったドロを出す作業も思う様にいかず、疲れが増すばかりの毎日だったと思います。そんな時、ボランティアの方が来て下さり、テキパキと動き、しかも笑顔で手伝って下さいました。若く元気な人達に助けて頂き、自分達もがんばろうと思えました。本当にありがとうございます。

匿名